

「みんなが

平和にくらせますように」

「みんなが

幸せにくらせますように」



世界遺産

中尊寺

岩手・平泉

中尊寺の鐘の音が

清衡公の想いをのせて

そら
宇宙のはてまで響きます



大

聞きたい事があったら

中尊寺事務局

岩手県西磐井郡平泉町平泉字衣関202

TEL 0191-46-2211

www.chusonji.or.jp



中尊寺・平泉の歴史

清衡公の思い

長い戦の果て、平泉を都に定め、東北地方を治めた藤原清衡公（ふじわらのきよひらこう）は、戦の中で命を落としてしまった敵味方の兵、鳥や動物、魚まですべての霊を供養しようと、中尊寺を建立（こんりゅう）されました。そしてこの東北の地に争いのない平和な国を築くことを誓ったのです。

世界の平和を
願い、建立。



? 清衡公が経験した戦は一体どんな戦だったの
だろう？歴史の本から探してみよう。

都と平泉

奥州藤原氏は京の都からたくさんの職人たちを平泉によび集め、多くの寺院を造りはじめました。そして、平泉でおおぜいの人々が生活をはじめ、やがて京の都のような大きなまちになったのです。

世界中の
宝物が
集められた

世界中の中の平泉

奥州藤原氏が栄えたころ、中国は宋の時代でした。奥州藤原氏は宋の国からたくさんの品物を輸入しました。その中にはお経の本や、遠くシルクロードを通して運ばれてきた、螺鈿（らでん）や象牙（ぞうげ）に代表される世界中の宝物などもあり、お堂を造る材料として使われました。

奥州藤原氏と鎌倉幕府

清衡公から基衡公（もとひらこう）、秀衡公（ひでひらこう）の三代にわたるおよそ百年間、大きな仏教都市として栄えた平泉。中尊寺をはじめ、毛越寺、無量光院などの大きなお寺が建立された平泉ですが、四代泰衡公（やすひらこう）の時代に、源義経をかくまったとして源頼朝軍にほろぼされ、奥州藤原氏のおよそ百年間にわたる歴史は終わりをつげたのです。

国宝・文化財



中尊寺では14世紀に山火事があり、多くのお堂は焼失してしまいました。しかし今でも、金色堂を始めとする3,000点をこえる文化財があり、奥州藤原氏の栄華を、今に伝えています。

? 中尊寺の文化財って、一体どんなものがあるのかな、調べてみよう？

金色堂



金色堂は平安時代の姿をとどめている貴重な遺産です。1124年（天治元年）清衡公は69歳のときに金色堂を建立し、その四年後に亡くなりました。清衡公の御遺体は金色堂に今でも納められています。清衡公が極楽浄土を実現するために建立した金色堂は、清衡公のご遺体を納める御霊廟（ごれいびょう）でもあります。

? 「霊廟」ってなんだろう。調べてみよう？世界にはどんな「霊廟」があるのかな？

本堂



本堂は、中尊寺で一番大きな建物で、大きなおしゃかさまを安置しています。1909年（明治42）に再建されました。本堂では年間を通してさまざまな行事を行い、写経や坐禅の修行道場でもあります。皆さんの体験修行もこの本堂で行われます。春・秋の藤原まつりや夏休み、お正月や節分の頃にはたくさんの人びとでにぎわいます。

体験学習

坐禅

中尊寺では皆さんの体験学習のために、坐禅の体験修行を行っています。日常的な悩みや欲、迷いから一度離れて心を落ち着かせ、自分自身を見直すことが坐禅の大きな目的です。皆さんが坐禅をする場所は中尊寺本堂。日常から離れたこの場所で修行に打ち込みましょう。お堂に入ると、和尚さんから坐禅の修行についての説明を受けます。この説明にしたがって修行することにより、皆さんは坐禅の修行を達成することができるのです。



緊張する必要はないんだよ。

ハラックツ!
ハラックツ!



写経

写経とは、お経を書き写すことにより仏さまの教えを学ぶ修行のことです。昔の人は、これから先も仏様の教えが正しく伝わるように、一字一字、心をこめて丁寧に書き写しました。お経は長く難しい漢字が並んでいます。筆で書いていくことはかんたんなことではありませんが、心をこめて、丁寧に書き写すと、時間はあっという間に流れ、書き終わることができます。

見て聞いてさわって

中尊寺では、奥州藤原氏がこのした多くの文化財が大切に守られています。中でも金色堂をかざる螺鈿細工（らでんざいく）や、金銅（こんどう）を使った品々は、奥州藤原氏が残した仏教美術を代表するものです。紺色の紙に金色や銀色の文字で書き写された中尊寺経は、奥州藤原氏の仏さまへのおもいをつたえています。学習室では、法話を聞いたり、映像を見たりしながら、奥州藤原氏の歴史や文化財について、



金色堂の中にある丸い柱を巻柱（まきばしら）といいます。表面で光っているのは螺鈿細工といい、南の海にすむ夜光貝という貝のからを使って作られました。

学習することができます。また、金色堂や宝物館の中では仏像や仏具にさわるとはできませんが、学習室にはさわることのできる複製があります。和尚さんのお話をききながら、中尊寺の歴史を学習してみましょう。



金銅華鬘（こんどうけもん）は金色堂をかざるために作られた工芸品で、極楽世界の鳥と花がすかし彫りされています。



中尊寺経は紺色の紙に金色や銀色の文字で書き写されました。

※学習室の利用には事前の予約が必要です。